

国内線小型機への対応について (セントレアの国内線が生まれ変わります)

セントレアでは、近年顕著となってきた空港間競争や国内航空会社の機材小型化の潮流等を踏まえ、昨年3月に策定した中期経営戦略において、「競争力ある空港を目指した、小型機・多頻度の航空ネットワーク構築」を掲げて取り組んで参りましたが、さらに、昨今の航空需要の低迷、JALグループの経営危機の影響等により、中部圏の国内線ネットワークが急速に縮小している状況下、セントレアにとりまして航空ネットワークの早期回復は喫緊の課題となっています。今般、こうした状況と国内線の機材小型化に対応するため、100席以下の小型ジェット機を対象とした着陸料の特別割引制度を導入するとともに、運用・施設面において大幅な改善を図りましたのでお知らせします。

1. 小型機対応の目的

(1) スポットの最適利用による利便性の向上

スポットの運用を工夫・改善することにより、以下のような利便性の向上を図ります。

- ・お客様にとっては、歩行やランプバスによる移動等の搭乗時間の短縮、手荷物のスムーズな受け取りなどによるCSの向上
- ・航空会社にとっては、定時運航率の向上

(2) ローコストな空港づくり

小型機の安定した就航を継続するために、運航コストをできるだけ引き下げる工夫・改善を行います。

2. 施策

(1) 運用・施設面

100席以下の小型機を対象に、お客様の利便性を向上させ、航空会社のあらゆるニーズに応えられるよう下記の改善を図りました。これにより国内線では、全ての機種が全スポットを使用できます。

① PBB(搭乗橋)による搭乗 (対象機材: ERJ)

これまでは、オープンスポットまでランプバスによる移動を行っていましたが、これによりターミナルビルからPBBによる直接搭乗が可能となります。

改善前 : 対応スポットなし

改善後 : 国内線の全スポット

②PBB(搭乗橋)による搭乗が困難な小型機への対応(対象機材:CRJ・プロペラ機)

小型機が自走イン・自走アウトにより国内線全スポットを利用できるようになります。これにより、トーイングにかかる時間が削減できることから定時性の向上が図られます。

また、2番・9番スポットでは、エプロン歩行による搭乗が可能となります。

(i)自走イン・自走アウト運用／ランプバスによる搭乗

改善前： オープンスポット及び2番スポットのみ

改善後： 国内線の全スポット

(ii)自走イン・自走アウト運用／エプロン歩行による搭乗

改善前： 対応スポットなし

改善後： 2番・9番スポット

(2)料金面

急速に縮小した国内線航空ネットワークの早期回復を図るため、座席数が少ない小型ジェット機の採算性に鑑み、100席以下の小型ジェット機(*1)で新規就航または増便となる場合、その着陸料を現行対比、1/5に割り引く特別割引制度を試行的に導入します。本施策により、100席以下の小型ジェット機がセントレアに就航する環境を整備し、国内線ネットワークの充実につなげてまいります。

なお、この割引制度は、平成23年4月から適用期間2年として導入します。

(*1)対象は国内運送事業

〔割引適用例〕

機種名	最大離陸重量 (t)	座席数 (席)	従来 (円)	割引後 (円)
CRJ-200	24	50	39,840	7,968
CRJ-700	33	70	54,780	10,956
ERJ-170	35	76	58,100	11,620
ERJ-175	38	84	63,080	12,616